



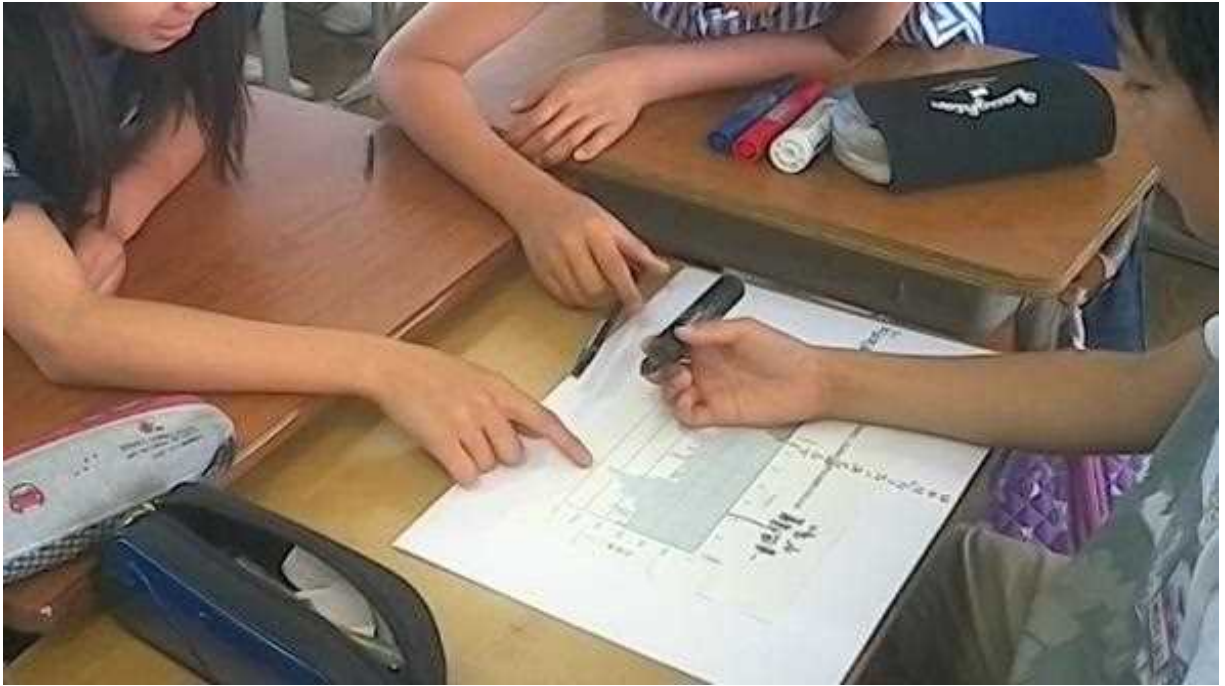
学校名	彦根市立佐和山小学校
タイトル	校外学習 沖島探検 島内ウォークラリー
コメント	沖島探検では、島内を自由にウォークラリーを行った。ウォークラリーでは、自分達が住んでいる場所との違いを見つけたり、人々の生活している姿を直に見たりすることができた。活動の中で島内の人々に実際にインタビューを行い、琵琶湖と共に生活してきたことを知ることができた。生活の様子の中で琵琶湖の環境の変化や高齢化が進み若い人が少なくなっていることなど島の課題についても知ることができた。この課題に対して自分達がどんなことができるのか考えるきっかけとなった。



学校名	彦根市立佐和山小学校
タイトル	校外学習 沖島探検 漁業組合での話
コメント	沖島探検では、漁業組合の方から昔から今にかけて琵琶湖と共に生活を続けている様子を聞くことができた。話の中で、漁獲量が減少してきている原因が琵琶湖の水質が大きく変わってきていることを知った。その原因がごみだけでなく、生活排水や外来魚などが関係していることなど多くの課題があることを知り、琵琶湖の環境の変化が島に住む人々に大きく影響を与えていることを実感した。



学校名	彦根市立佐和山小学校
タイトル	フローティングスクール 環境学習
コメント	6月末に琵琶湖の船内で宿泊体験学習（フローティングスクール）を行った。2日目の船内での琵琶湖環境学習では、①プランクトンの観察②透視度調べ・40年前の琵琶湖の水との比較③水の汚れ回復実験④魚・湖泥・水草の観察の4つの学習ブースを準備した。子ども達は事前に沖島へ校外学習に行っており、その際に疑問に感じたことを解決するために必要なブースを中心に回りながら学習に取り組んだ。



学校名	彦根市立佐和山小学校
タイトル	フローティングスクール 事後環境学習
コメント	昭和29年から平成20年までのふなの漁獲量についてのグラフをもとに学習した。平成20年の漁獲量より琵琶湖の水質がひどく悪化している昭和40年代のほうが多くふなが獲れていることに気づき、その理由について考え、グループで話し合った。子ども達はフローティングスクールでの環境学習で学んだことをもとに交流することができた。さらに、学習の終わりに、これからの琵琶湖はどうなっていくのかを自分にできることは何かを考えたり、自分の生活を見直したりして一人一人が琵琶湖への課題をもつことができた。